

幼児のボール遊びに関する研究 ⑧

——ローリングを基礎としたボール遊び——

岡 本 卓 夫

まるいものは不安定である。ボールは手を加えなくてもたえずころがろうとしている。ただ、ころがすだけなら本当に何の技術もない。一歳児でもころがすことができる。本当にころがすことは簡単であり、しかも幼児たちはそれを好む。

このようなボールの一性質を生かし、幼児たちがより興味を持って遊ぶようにしたのが、このボール遊びである。

それではこの遊びをすることによって、幼児たちは何を経験するであろうか。

- (一) ボールが手から離れる時の指先の感覚を知るようになる。
- (二) それによって、強く、あるいは弱く転がす方法を知ることになる。
- (三) ボールが、床にぴたりついて上手に転がすためには、どんな転ばせ方がよいかを知ることになる。
- (四) 重いボールとどちらがうまく転ぶかを知ることになる。

以上がこの遊びから得る幼児たちの主なる経験内容になるであろう。次にその主なる遊びについて説明する。

(一) ボール転がし遊び

○人数 二人、あるいは、グループを作る時は、五人、六人を一組とする。

○準備 幼児ボール(大小)、ベースボール、テニスボール、ピンポンボール等。

○遊びの目標

- (イ) 三、四米の間隔で二人で転がして遊ぶ。
- (ロ) 同間隔で一グループ五、六人で相対して平行に並び、いわゆる対列ボール転がしをして遊ぶ。
- (ハ) 各プレイヤーはサークルをつくり、円形で自由に転がして遊ぶ。

○留意点

- 1. いろいろのボールを使用させ、子どもたちに適当なボールを選

ばせる。

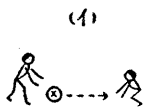
2. ボールが床あるいは地上にはずまないようにする転がし方を指導する。

3. グループの時は、同じ者ばかりにさせないよう。

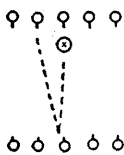
4. その方策として、対列の片方の端から順次させるのもよい。

5. ボールをふやして、途中で衝突させるように指導すると、非常によろこんでする。

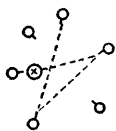
6. また「誰でも好きな人の名を呼んでからお互に転がし合いましたよう」といっても上手にできないし、このようにした方が実際には幼児たちがボールの取り合いをせずに、遊びが楽しく公平にできる。



(ロ)



(ハ)



(イ)



(ロ)



(ハ)



(二) トンネルボール

○人数 一グループ五人〜六人。

○準備 幼児ボール（大）一個。

○遊びの目標

各プレイヤーは、股を開いて縦に一直列に並び、両端のプレイヤーのみ内側に向う。両端のプレイヤーがボールを転ばし、センター

プレイヤーたちは脚にボールがあたらないよう、手でボールを操作しながら転がす遊び。

○ルール

1. 脚にボールがあたったら、その時転がした外側のプレイヤーと交代する。

○留意点

1. 最初の中はルールなしに転がして遊ぶだけでよい。

2. 方向はいつもかえなくても一定でよい。

3. 幼稚園後期になると、転がした者から順次列の後部に続けさせて、連続して転がせるよう指導してみることに。

4. それができるなら逆に後部の者が、ボールを持って前部へ続かせるよう指導する。

(三) 転がしドッジボール

○人数 一グループ六人〜八人。

○準備 一グループに幼児ボール（ドッジボール）（大）一個。

○遊びの目標

一つのグループは、手をつないで大きな円をつくり、他のグループはその中に散在し、外野のプレイヤーたちは互にボールを転がして中のプレイヤーにあてて遊ぶ。

○ルール

1. 外野になったプレイヤーは、投げ当ててはいけない。ただしはずんで転んでいるのはよい。
2. 内野プレイヤーは、いかなる部分にボールがあたってもアウトとなり、場外に出ること。
3. 全員アウトにされるか、あるいは一定の時間が来たら、交代する。

○留意点

1. サークル上の各プレイヤーの位置に小円を書いてやる。
2. 必ず転がすよう注意すること。
3. ボールの取合いなどさせないように、先にボールに触った者が持つようにさせる。



4. 内野プレイヤーを一人ゝ二人とし、ボールにあたると、その時あてた人と交代させることもおもしろい。

(四) 転がし鬼

○人数 一グループ六人ゝ八人。

○準備 幼児ボール(大)一個、十米平方の遊び場。

○遊びの目標

各プレイヤーは、手をつなぎ、大きな円をつくる。その中央に小積木(二段)を置く。各プレイヤーは、互にボールを転がし、もし積木にあてて落すと、そのあてた人が鬼となり、他のプレイヤーを追いかけてつかまえる遊び。

○ルール

1. ボールは必ず転がし(はずみながら転ぶのは良い)、直接投げあててはいけない。
2. 逃げ手は場外に出てはいけない。
3. つかまったプレイヤーが次の最初の転がす人になる。

○留意点

1. 各プレイヤーの位置に小円を書いてやる。
2. 捕えなくても、触るだけでよい。
3. 捕えたら「捕えた」と大声で叫ばせ、全員を早く自分の位置に帰らせること。
4. 種々のボールを使用してみること。

(五) 岩の上のあひる

○人数 一グループに三人～四人。

○準備 各プレイヤーにベースボール一個宛、岩およびあひる（積

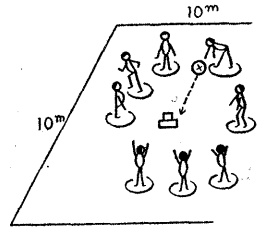
木を二段に積む）一個、約六米×五米の遊び場。（ただし一方の端は壁がよい）

○遊びの目標

ガード（ここでは鬼）を除いた他のプレイヤーは、遊び場の片方の端は横隊に並び、遊び場の中央約三米の位置に置かれた岩の上のあひるにボールを転がし、あてて落す遊び。

○ルール

1. リーダーの合図で同時に転がす。
2. もしあたらなかったら、そのボールを直ちに取り、鬼につかまらないようものと位置に帰って来る。ただし場外に出てはいけない。

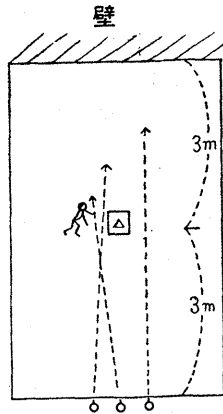


○留意点

3. ガード（鬼）は、他のプレイヤーがボールを取ってからもとの位置に帰る間につかまえることができる。
4. つかまえられたら次回の鬼になる。
5. あひるを落した人は鬼につかまることはない。
6. あひるを落されたなら、鬼は先にそれを復旧してから、他のプレイヤーをつかまえねばならない。

よい。

2. 遊び場の前方は必ず壁のある方がよい。



(六) ボール転がし競走

○人数 一グループに五人～六人。

○準備 一グループに旗一本、幼児ボール（大）一個。

○遊びの目標

各グループは旗より約四米離れた出発線の内側に縦に一列に並

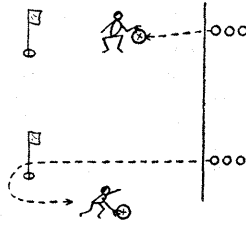
び、先頭プレイヤーより順次手でボールを転がしながら旗をまわって帰る遊び。

○ルール

1. まわり方はどちらからでもよい。
2. ボールは片手で転がすこと。
3. 線の内側でリレーすること。
4. 早く終ったグループが勝ちとなる。

○留意点

1. 終ったプレイヤーは列の後部へつかせる。
2. 応援させる。



(七)山羊の角

○人数 一グループに五人〜六人。

○準備 一グループに幼児ボール(大)一個、約五〜六米離れた二

本の平行線。

○遊びの目標

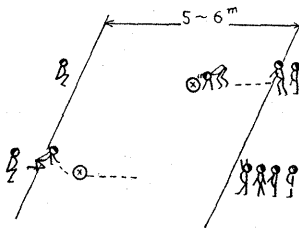
各グループは出発線の内側に縦に一列に並び、先頭のプレイヤーから順次頭でボールを転がし、決勝線に着いたらすぐにリターンロールしていく遊び。

○ルール

1. 手や足を使ってはいけない。必ず頭で行う。
2. 早く終ったグループが勝ちとなる。

○留意点

1. 終った者は順次並ばせていく。
2. 風の強い時屋外で実施してはいけない。



以上で私の「幼児のボール遊びに関する研究」の主なるものの報告を終了したいと思うが、全体的に眺めて、まだまだ修正しなければならぬ点も数多くあると思っているので、現場の諸先生方のよきご指導とご助言を心からお待ちしております。